

①おほほしく籠れるわれは誘拐をされ居る
人の写真に見入る

②足枷の如きも見えて写り居り同世代なれ
ば見るしみじみと顔を

へ見る」という行為に想いが込められて
いる。

③マトン入り極辛カレーを食らいつつ白服
の大統領を近く見て居つ

④髭立てて顔も楽しきブータンの詩人と並
びカレーを食い居り

⑤白鬚のインドの詩人の唇を出るとき燦然
と「平和」の一語

これらは、バングラディシユの首都ダッ
カにて開催された「アジア詩祭」に、日本

ペンクラブから派遣された折の歌である。
作者自身の珍しがつている様、楽しんでい

る様子が表われている。
旅の歌もへトピックスの歌として数え

ていいだろう。
⑬祖父の拓ける土地を継ぎて生くこの野男

も厚きてのひら
⑭暖かく冬も生くらむ防風林を囲らせて君

の家族の笑顔
⑮鳶ふたつ浮きおる空ゆ降る雨に小さき

リュック子は揺り上げて

⑯まだ青き万の蜜柑を吊れる木をびつしり
乗せて静かなる島

⑰⑱は帯広の歌人時田則雄を訪ねた旅、
⑲は因島への旅の歌である。⑲に子が登

場するが、家族の歌については後でも触れ
る。

次に、作者の仕事に纏わるへトピックス
の歌を。

⑲「夕愁の歌集」と仮に名付けおき『思草』
を書庫の闇にぞ返す

⑳「東歌」を脱稿したり、うつとりと望遠
鏡の中の満月

㉑受験生一万八千が字を書ける早稲田大学
二月二十一日朝

㉒うつせみの歯は痛めども採点の赤鉛筆を
三日にぎるも

㉓㉔は、それぞれ『佐佐木信綱』『東歌』
を脱稿した安堵感を詠んだ歌であり、㉔は

試験監督、㉔は試験の採点を歌っている。
いづれも、作者ならではのへトピックスの

歌だろう。
最後に、家族に関するへトピックスの歌を

を挙げる。
㉕桃の実の小さき五月十九日われに二人目

の男の子来たりぬ

㉖新生兄弟を見んと伸び立てる兄のうしろ
に窓さしのぞく

㉗かすかにし揺れて清しき兄たらん覚悟の
ごときものも見ていつ

㉘少年の跳んできらめく輪が廻る校庭に來
てわが子をさがす

㉙歓声が吊り上げたりと思うまで少年の四
肢宙にのけぞる

㉚白帽のことに背低き少年が吾子なりきし
ばらく気がつかざりき

㉛桃の木に桃の花ふと五つ六つ開ける下に
立たんとす吾子は

㉜笑み開く花の木の下の、もつさりといま定
綱は遂に立ったり

㉝罐コーヒーの罐あたたかき春の日の静け
きを来ぬははそばの母と

㉞入院の母を置ききて春の雪積める車に
キーを差し込む

歌を読めば説明不要かも知れないが、㉞
は次男誕生、㉞㉟はその折の長男の姿、㉟

㊱は長男の運動会、㊱㊲は次男が初めて
立った喜び、㊲㊳は母の入院が歌われている。

どれもスナップショットのように描か
れているのだが、そこには作者独自のフイ

ルターが掛けられているように思う。